

## 7 食育について

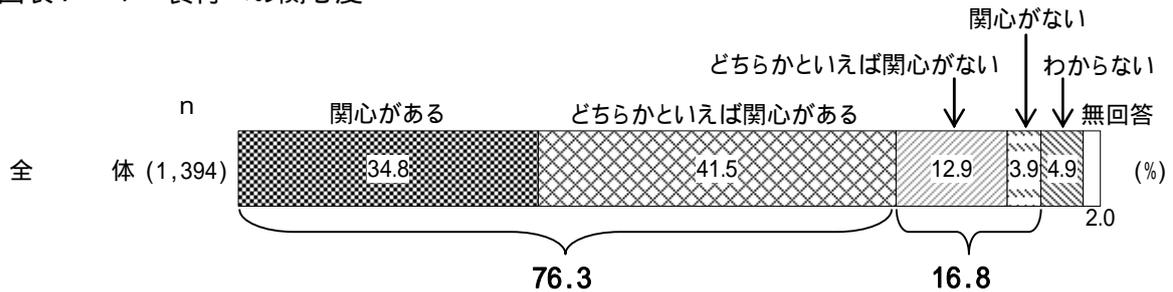
### (1) 食育への関心度

『関心がある（計）』が7割台半ば

県では、心身の健康の増進と豊かな人間形成のため、県民一人ひとりが食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができるよう、子供から高齢者まで各世代に応じた施策や生産者との交流、食文化の伝承など食育の推進に取り組んでいます。

問27 あなたは、「食育」に関心がありますか。（は1つ）

<図表7 - 1> 食育への関心度



「食育」に関心があるか聞いたところ、「関心がある」(34.8%)と「どちらかといえば関心がある」(41.5%)を合わせた『関心がある（計）』(76.3%)が7割台半ばで高くなっている。

一方、「どちらかといえば関心がない」(12.9%)と「関心がない」(3.9%)を合わせた『関心がない（計）』(16.8%)は1割台半ばとなっている。(図表7 - 1)

#### 【地域別】

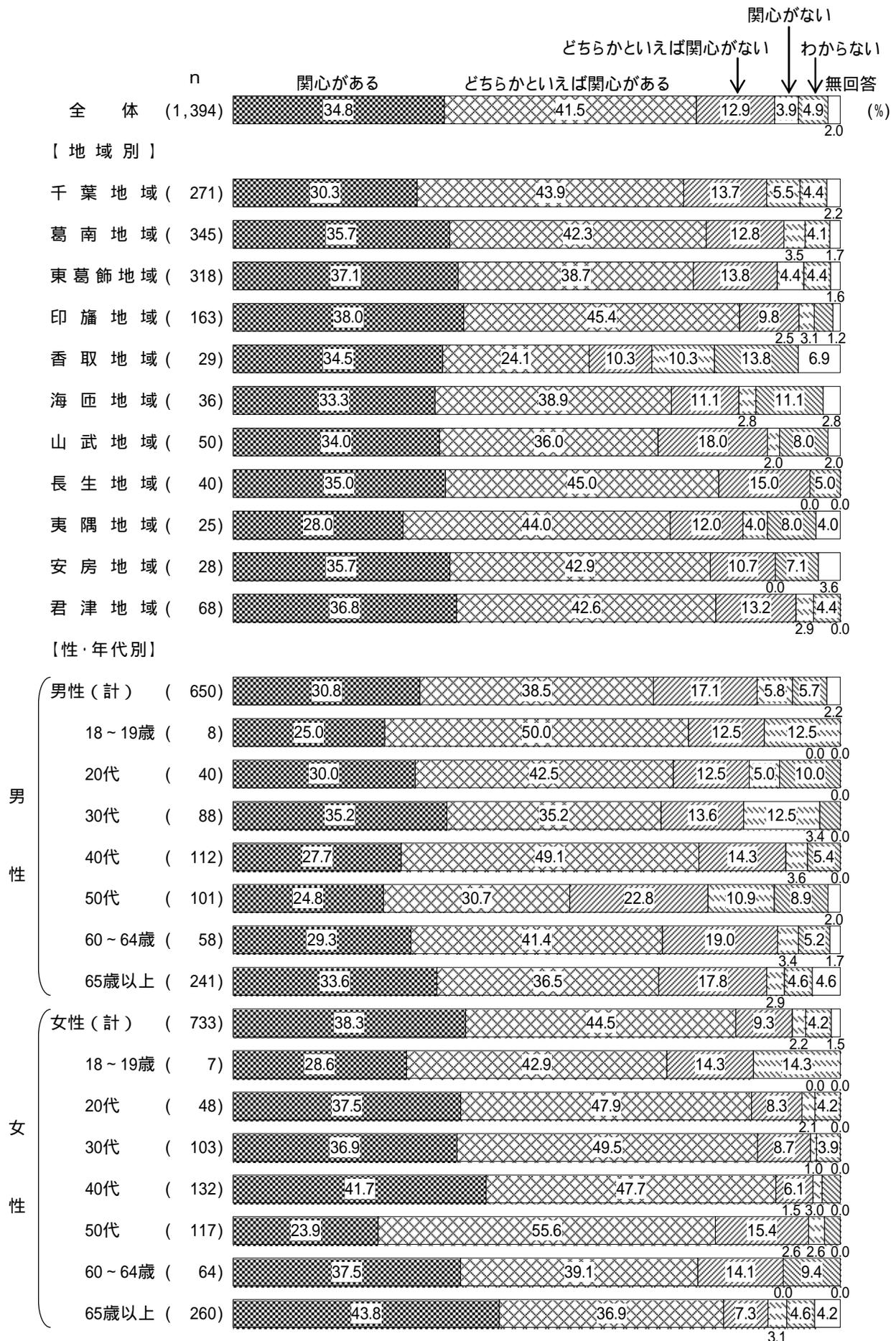
地域別にみると、『関心がある（計）』は“印旛地域”(83.4%)が8割を超えて高くなっている。  
(図表7 - 2)

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『関心がある（計）』は女性の40代(89.4%)が約9割、女性の20代(85.4%)、30代(86.4%)が8割台半ばで高くなっている。

一方、『関心がない（計）』は男性の50代(33.7%)が3割台半ば、男性の30代(26.1%)が2割台半ばで高くなっている。(図表7 - 2)

<図表7 - 2> 食育への関心度 / 地域別、性・年代別

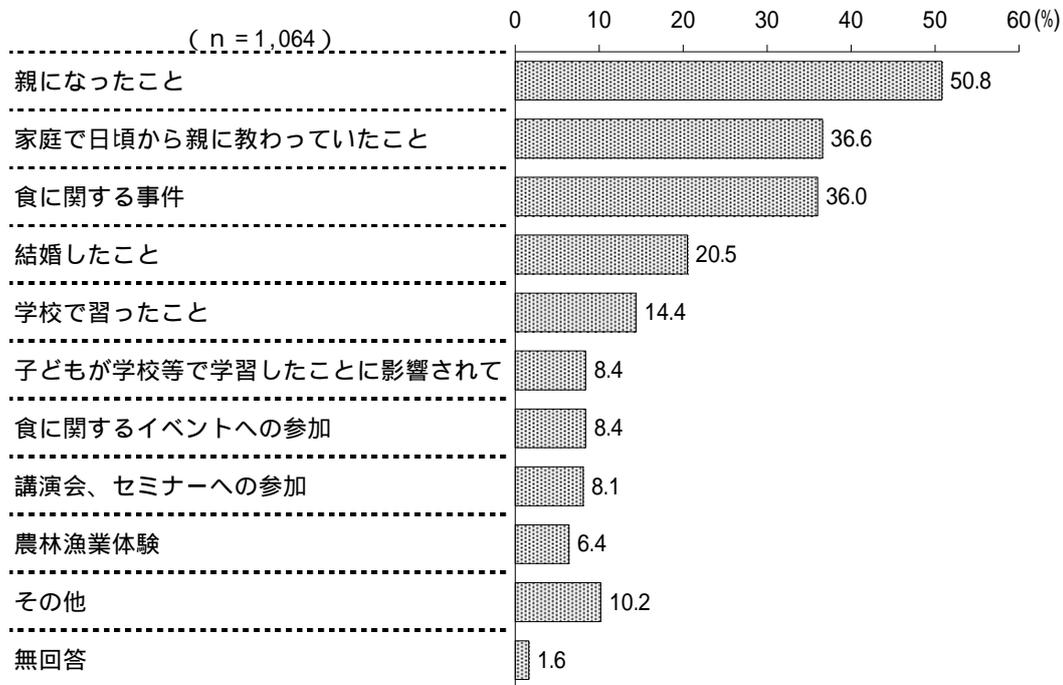


## （2）食育に関心を持ったきっかけ

「親になったこと」が5割

（問27で「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」とお答えの方に）  
 問28 あなたが、「食育」に関心を持ったきっかけは何ですか。（はいいくつでも）

<図表7-3> 食育に関心を持ったきっかけ（複数回答）



食育に関心があると答えた1,064人を対象に、食育に関心を持ったきっかけは何か聞いたところ、「親になったこと」（50.8%）が5割で最も高く、以下、「家庭で日頃から親に教わっていたこと」（36.6%）、「食に関する事件」（36.0%）、「結婚したこと」（20.5%）、「学校で習ったこと」（14.4%）が続く。（図表7-3）

### 【地域別】

地域別にみると、「子どもが学校等で学習したことに影響されて」は“海匠地域”（19.2%）が約2割で高くなっている。（図表7-4）

### 【性・年代別】

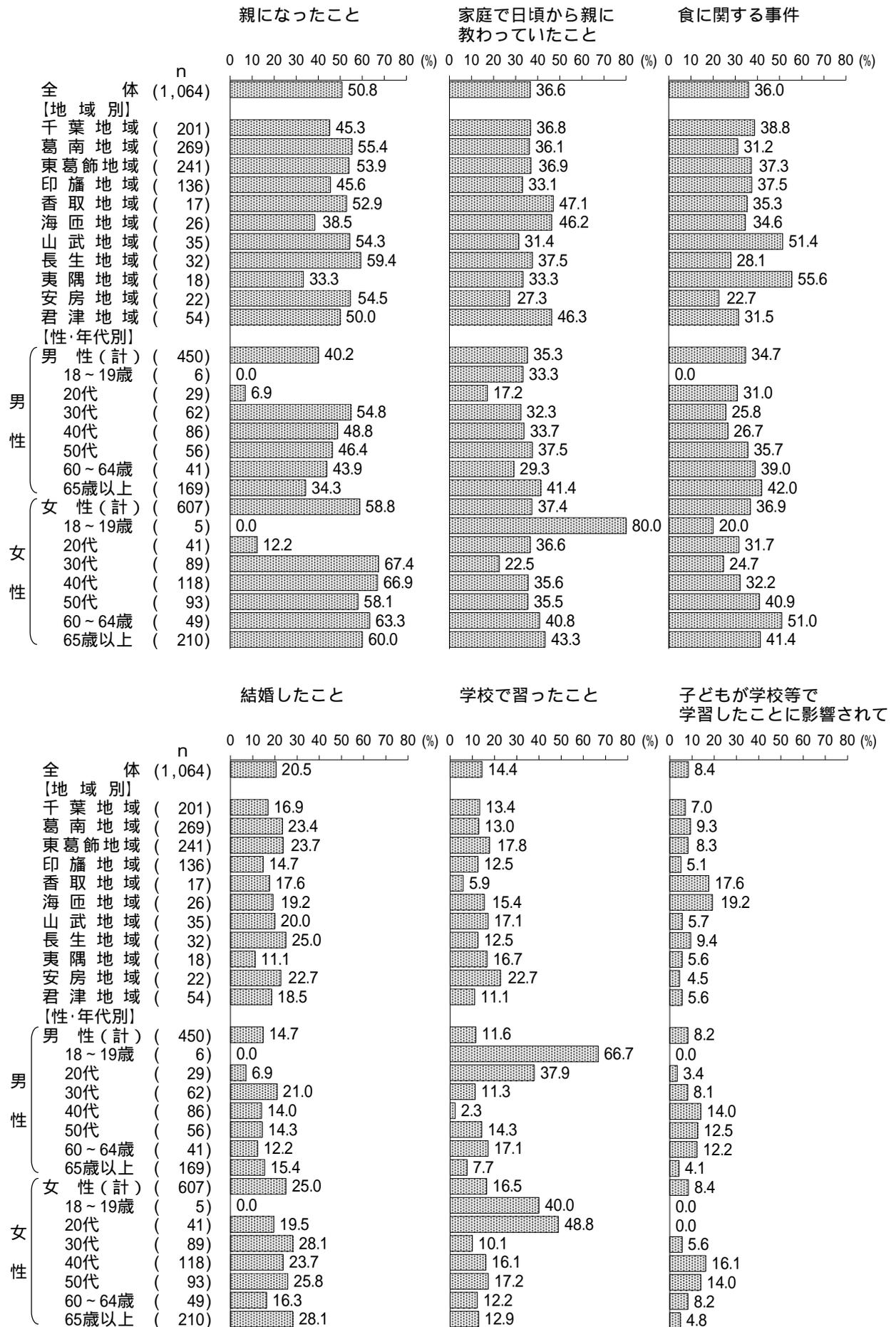
性・年代別にみると、「親になったこと」は女性の30代（67.4%）が約7割、女性の40代（66.9%）が6割台半ば、女性の60～64歳（63.3%）が6割を超え、女性の65歳以上（60.0%）が6割で高くなっている。

「食に関する事件」は女性の60～64歳（51.0%）が5割を超えて高くなっている。

「結婚したこと」は女性の30代（28.1%）、65歳以上（28.1%）が約3割で高くなっている。

「学校で習ったこと」は女性の20代（48.8%）が約5割、男性の20代（37.9%）が約4割で高くなっている。（図表7-4）

<図表7 - 4> 食育に関心を持ったきっかけ（複数回答）/地域別、性・年代別（上位6項目）



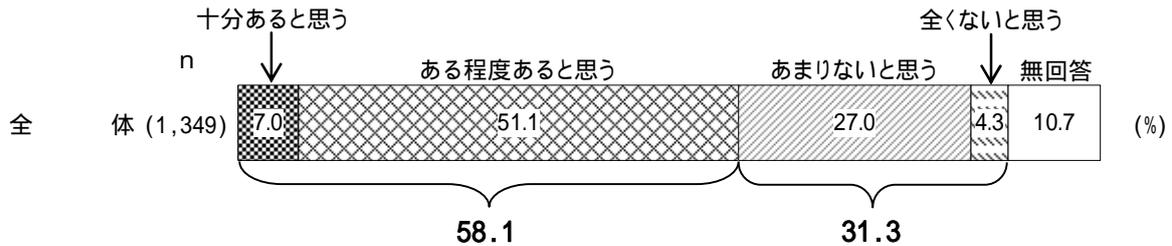
### （3）健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識があると思うか

『あると思う（計）』が約6割

（問27で「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」、「わからない」とお答えの方、問28をお答えの方に）

問29 あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについて知識があると思いますか。（は1つ）

<図表7-5> 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識があると思うか



食育に関心がない、あるいは「わからない」と答えた人、および食育に関心を持ったきっかけを答えた1,349人を対象に、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについて知識があると思うか聞いたところ、「十分あると思う」（7.0%）と「ある程度あると思う」（51.1%）を合わせた『あると思う（計）』（58.1%）が約6割で高くなっている。

一方、「あまりないと思う」（27.0%）と「全くないと思う」（4.3%）を合わせた『ないと思う（計）』（31.3%）は3割を超えている。（図表7-5）

#### 【地域別】

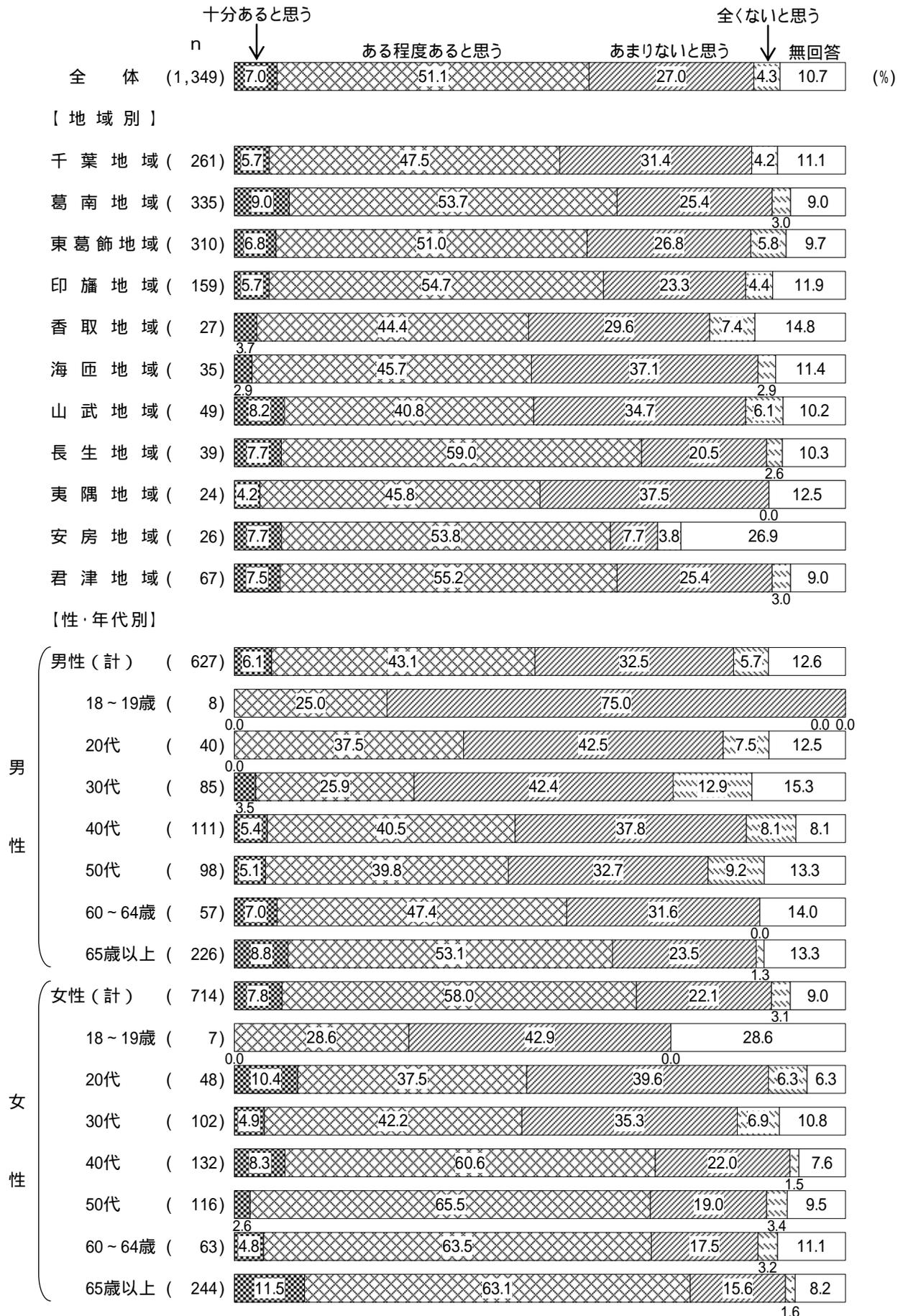
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表7-6）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『あると思う（計）』は女性の65歳以上（74.6%）が7割台半ば、女性の40代（68.9%）、50代（68.1%）、60～64歳（68.3%）が約7割で高くなっている。

一方、『ないと思う（計）』は男性の30代（55.3%）が5割台半ば、男性の20代（50.0%）が5割、男性の40代（45.9%）と女性の20代（45.9%）が4割台半ば、男性の50代（41.9%）と女性の30代（42.2%）が4割を超えて高くなっている。（図表7-6）

<図表7 - 6> 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識があると思うか / 地域別、性・年代別



#### （４）農林漁業体験の参加状況

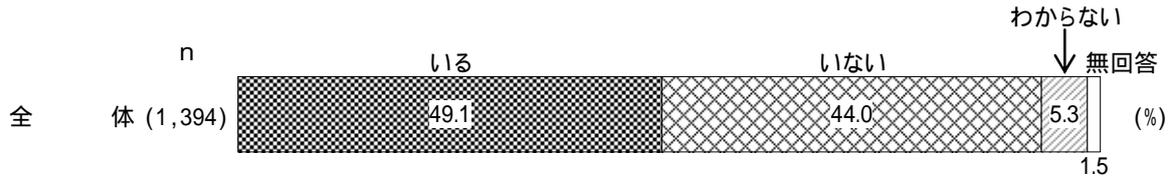
「いる」が約５割

問30 あなた又はあなたの家族の中で、農林漁業に関する体験（ ）に参加したことがある人はいますか。（ は１つ）

農林漁業に関する体験の例：

いちご狩りなどの収穫体験、農作業体験、学童農園での栽培や調理実習、学校での体験活動、市民農園での栽培体験、道の駅や交流施設などの体験活動、農林漁村に宿泊し交流する教育旅行など

<図表 7 - 7> 農林漁業体験の参加状況



自身又は家族の中で、農林漁業に関する体験に参加したことがある人はいるか聞いたところ、「いる」(49.1%)が約５割となっている。

一方、「いない」(44.0%)は４割台半ばとなっている。(図表 7 - 7)

##### 【地域別】

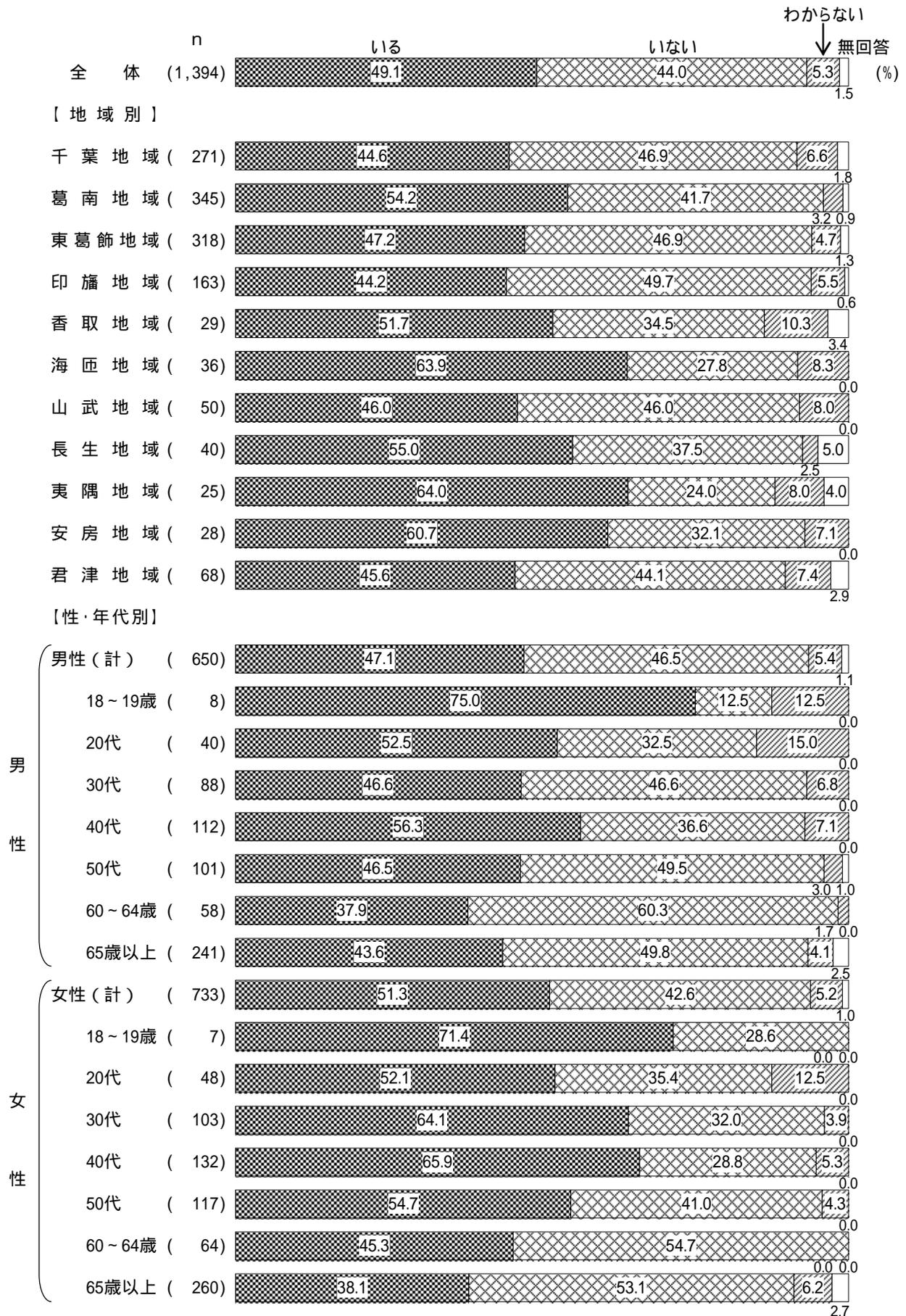
地域別にみると、「いる」は“夷隅地域”(64.0%)、“海匠地域”(63.9%)が６割台半ばで高くなっている。(図表 7 - 8)

##### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「いる」は女性の30代(64.1%)、40代(65.9%)が６割台半ばで高くなっている。

一方、「いない」は男性の60～64歳(60.3%)が６割、女性の60～64歳(54.7%)が５割台半ば、女性の65歳以上(53.1%)が５割を超えて高くなっている。(図表 7 - 8)

<図表7-8> 農林漁業体験の参加状況 / 地域別、性・年代別

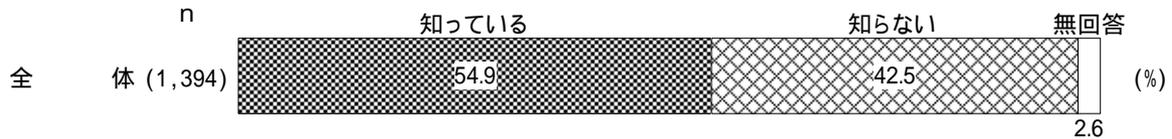


## （５）食に関わる文化の認知状況

「知っている」が５割台半ば

問31 あなたは、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を知っていますか。（は1つ）

<図表7 - 9> 食に関わる文化の認知状況



地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法を知っているか聞いたところ、「知っている」（54.9%）が５割台半ばとなっている。

一方、「知らない」（42.5%）は４割を超えている。（図表7 - 9）

### 【地域別】

地域別にみると、「知らない」は“印旛地域”（52.1%）が５割を超えて高くなっている。

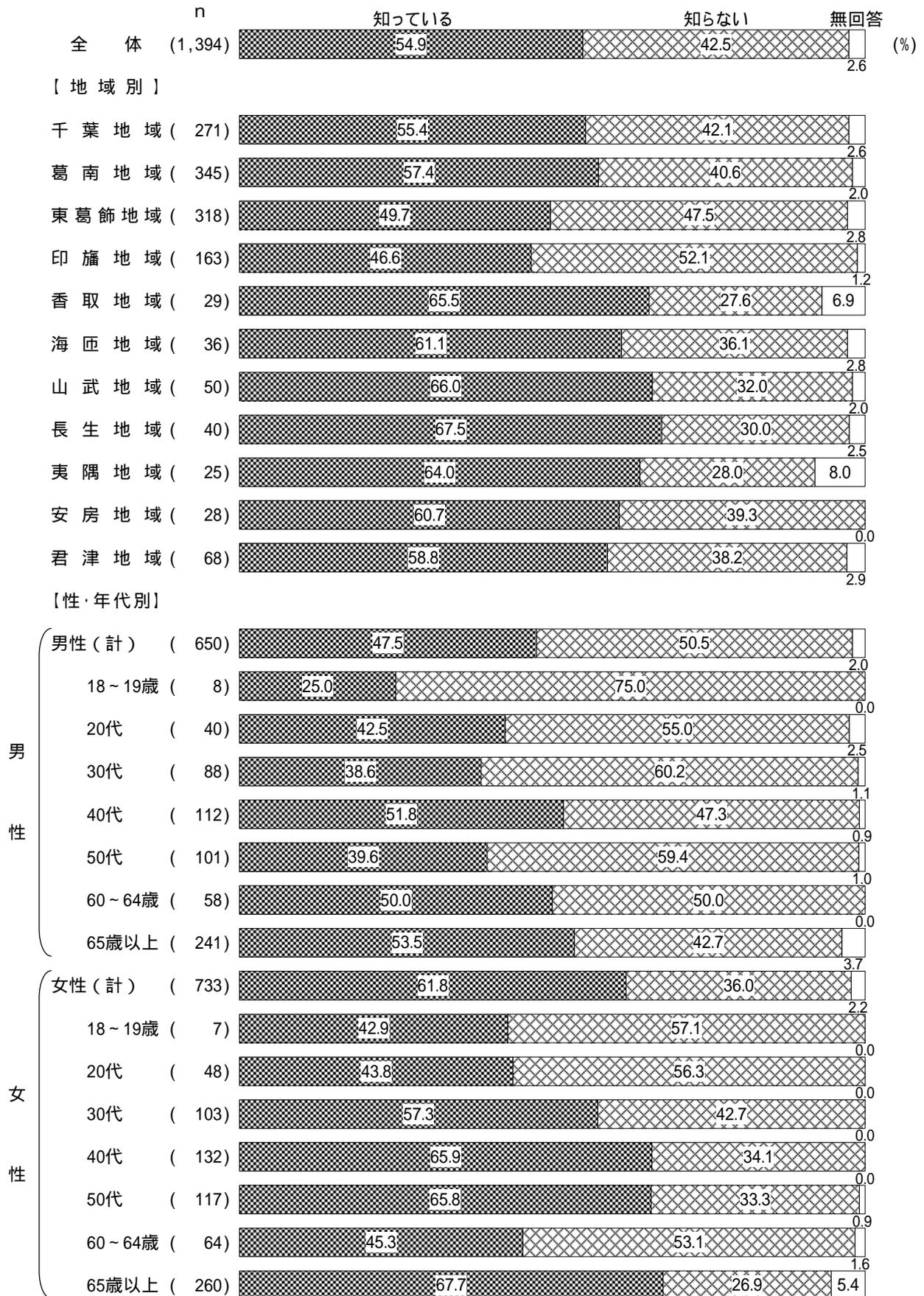
（図表7 - 10）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は女性の65歳以上（67.7%）が約7割、女性の40代（65.9%）、50代（65.8%）が6割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」は男性の30代（60.2%）が6割、男性の50代（59.4%）が約6割で高くなっている。（図表7 - 10）

<図表7-10> 食に関わる文化の認知状況 / 地域別、性・年代別



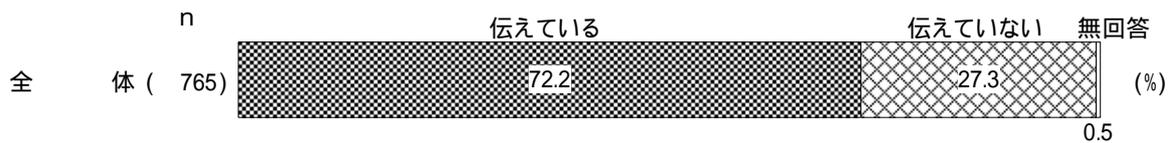
## （6）食に関わる文化の伝承について

「伝えている」が7割を超える

（問31で「知っている」とお答えの方に）

問32 あなたは、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を地域や次世代（子どもやお孫さん含む）に対して伝えていますか。（は1つ）

<図表7-11> 食に関わる文化の伝承について



地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法を知っていると答えた765人を対象に、伝統的な料理や作法を地域や次世代に対して伝えているか聞いたところ、「伝えている」(72.2%)が7割を超えて高くなっている。

一方、「伝えていない」(27.3%)は約3割となっている。(図表7-11)

### 【地域別】

地域別にみると、「伝えていない」は“君津地域”(37.5%)が約4割で高くなっている。

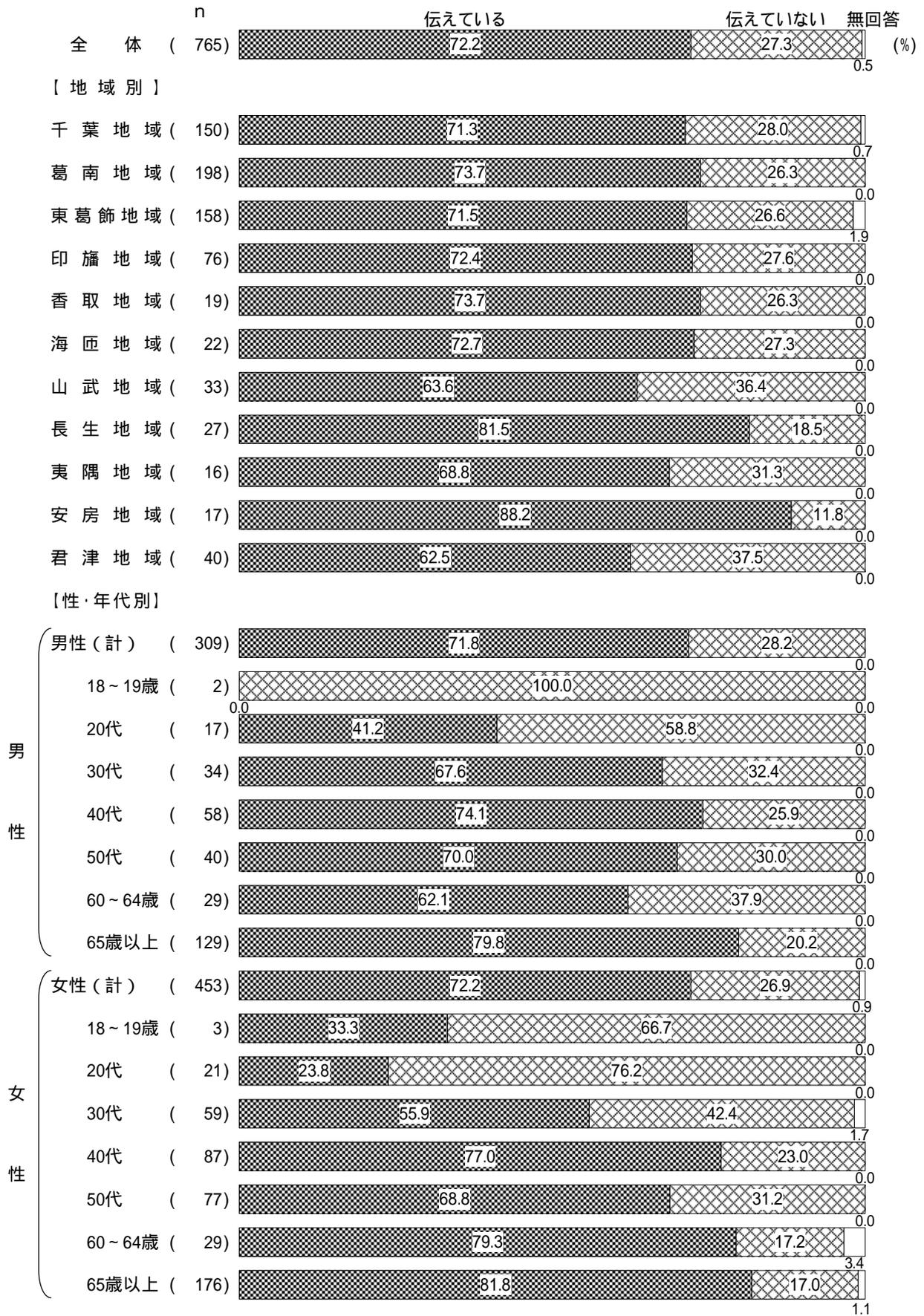
(図表7-12)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「伝えている」は女性の65歳以上(81.8%)が8割を超えて高くなっている。

一方、「伝えていない」は女性の20代(76.2%)が7割台半ば、女性の30代(42.4%)が4割を超えて高くなっている。(図表7-12)

<図表7 - 12> 食に関わる文化の伝承について / 地域別、性・年代別



このほかに、「食育について」やここまでの質問（問27～問32）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、154人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

「食育」の自由回答（抜粋）

地域の伝統的な料理、作法が薄れて来るのがさびしいです。若い人は洋風の料理が好きですが和食の良さを知ってもらいたい。（女性、65歳以上、千葉地域）

土に親しむ経験は小さい子どもに是非体験させた方が良く考えています。必ずや将来何かしら役に立つと思います。（男性、65歳以上、千葉地域）

家庭菜園をしていて、野菜の種を植えてから収穫までの経過観察や手間をかけて育てたものを収穫する喜び、楽しみを実感、自然の味を知り様々な知識を得られている。プランターでも栽培できる野菜などあるので幼い頃から一緒に実施すると食べ物の好き嫌いが減ると思う。（女性、30代、東葛飾地域）

親子でコミュニケーションをとりながら食育について学べる場所があれば積極的に参加していた。これからもそういうイベント等があると良いと思う。（女性、50代、葛南地域）

子どもが小学校で千葉の名産品の勉強をしたり、給食で千葉県や地域でとれたものを食べようと、身近に千葉のことを学べることがすごくよいと思います。これからも続けてほしいです。子どもも楽しそうに千葉のことを教えてくれます。（女性、30代、葛南地域）

食の安全は行政や企業の努力でかなり問題ないところまで社会が成熟してきたと思いますが、栄養のとり方や、個食など家族の中での食事のとり方が課題のように思います。家族のだんらの場がなくなってきていることが地域の希薄化の基礎にあるように思います。（男性、60～64歳、千葉地域）

小学校からもっと食育の取り組みをした方がよいと思う。子供の頃の食生活が、成人病へと続いていくような気がします。食べるということの大事さを、早いうちから知ってもらいたい。（男性、50代、千葉地域）

小学校のプリントで地産地消のメニューが載せられています。（給食でも地元野菜を使ったメニューの日）というのがあるようです。自分でも「郷土料理」の体験とかがあったら行ってみたい。（女性、50代、印旛地域）